

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	北区
学校名	豊崎東小学校
学校長名	鬼塚 光晴

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・豊崎東小学校では、第6学年 62名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数とともに、全国平均・大阪市平均を上回った。

平均正答率は、全国平均と比べ国語が1.2ポイント（以下「P」と表記）、算数が8.0P上回った。平均無解答率は、全国平均と比べ国語が2.3P、算数が1.1P下回った。特に、国語においては、あきらめずしっかりと考え方粘り強く取り組むことができている。

総じて、国語と算数ともに基礎学力が高まってきたことを示す結果であり、昨年度に浮かび上がってきた国語「読むこと」「書くこと」、算数はすべての領域で、丁寧に取り組んできた成果が表れた結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

学習指導要領の領域「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」と「(3)我が国の言語文化に関する事項」においては、全国平均を上回っている。「(2)情報の扱い方に関する事項」に関しては、昨年度は全国平均を大きく上回っていたが、今年度に関しては全国平均を下回る結果となった。また、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の内容に関しては、全国平均を上回る結果となった。

〔算数〕

学習指導要領の領域「A 数と計算」、「B 図形」、「C 測定」、「C 変化と関係」、「D データの活用」の各領域で全国平均を大きく上回った。特に、「A 数と計算」「C 測定」で7.0P以上全国平均を上回っており、個に応じた指導を進めてきた成果が表れた。総じて、年々基礎的・基本的な知識や技能は定着してきているといえる。

〔理科〕

学習指導要領の領域「粒子」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域において全国平均を上回っている。しかしながら、「エネルギー」を柱とする領域と「生命」を柱とする領域においては、全国平均を4.0P下回った。今後は、ふりかえり学習をおこない、定着を図っていきたい。

質問調査より

「朝食を毎日食べていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目では、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っており家庭での生活習慣の高さがうかがえた。「将来の夢や目標を持っていますか」の項目に関しても、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っており、キャリア教育を推進している結果が表れている。

また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」や「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に関しても肯定的な回答の割合が全国平均を上回っており、考えて行動したり違いを認め合うことのできる児童が増えている結果となった。

今後の取組(アクションプラン)

今年度も昨年度同じく国語科、算数科とも全国平均を上回った。しかしながら、各領域や個々の児童の結果を細かく分析すると、学力の二極化や課題の大きな児童の支援すべき要点が明白になってきている。児童一人ひとりの課題に対して、個に応じた丁寧な指導やペア、グループで交流する活動を今後とも進めしていく。

すべての児童にとって「楽しい学校」「過ごしやすい学校」となるように、実生活に役立つ学習を教科横断的に取り組んでいく。また、学校の授業だけではなく、家庭学習や自習学習など様々な場でタブレットやICT機器を活用することで、より深い学びになるよう取り組んでいく。

児童にとって、楽しく分かりやすい授業となるよう、チーム学校として研究や研修を行い、授業改善に取り組んでいく。